

第3回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

平成 22 年 12 月 16 日（木）

時間 午後 2 時 から

場所 弥富市 市民ホール 3 階

○議 事

山崎議長	・ただ今から、「第2回弥富市地域公共交通活性化協議会」を開催する。
服部市長	・12月中旬という大変お忙しい中、本協議会への出席を感謝する。 ・6月21日よりコミュニティバスの運行が開始され、約半年になる。その間、市民や事業者からいろいろと意見をいただき、9月にはアンケート調査を行った。本日は、アンケート調査結果について説明を行い、課題の共有化をしたいと思う。そしてこれを来年の運行に活かしていきたい。 ・皆さま方から忌憚のないご意見をいただき、本日の会議が実りある物にしたいと思っているので、よろしく。
事務局	資料の確認（資料1-1、1-2、資料2、資料3、資料4、資料5、参考資料1）
事務局	議題（1）調査結果報告 利用者実態調査（資料1-1） ・7～11月の5ヶ月間と9/27～10/10、10/18～10/31の4週間の乗車実績の調査を行った。 ・実証運行開始直後の7月が最も乗車人数が多かった。その後、一旦減少したが、10月には増加に転じた。 ・全体的に福祉バスの利用と概ね同様の月別利用傾向であるが、乗車人数は減少している。 ・北部ルートでは、「総合福祉センター」の利用が多く、「荷之上公民館」や「平島中タウンパーク」の利用が少ない。 ・南部ルートでは、「近鉄弥富南口」の利用が多く、「潮見台霊園」や「弥富野鳥園」などの利用が少ない。 ・東部ルートでは、「佐古木駅」の利用が多く、「五斗山」や「すずきこどもクリニック」、「十四山中学校」の利用が少ない。 ・曜日別利用は、どのルートも利用傾向は似通っており、日曜日が最も少なく、金曜日の利用が最も多い。 モニタリング調査結果（資料1-2） ・「住民アンケート」、「企業アンケート」の2種類の調査を行った。 ・「住民アンケート」は、弥富市内に居住する16歳以上の住民2,000名を対象に実施し、回収数は974通、回収率は48.7%であった。 ・また別途、区長会や女性の会、福寿会も対象にアンケートを実施した。 ・「企業アンケート」は、弥富市の臨海部に立地する企業127社を対象に実施

	し、回収数は50社、回収率は39.4%であった。 ・「住民アンケート」の結果、コミュニティバスの認知度は、87.8%が「知っている」と回答したが、「利用している」のは、全体の8.4%（82名）と、低い利用率であった。「利用していない理由」として、「便数が少ない」「移動に時間がかかる」「路線・ルートが合わない」の順に多い。運行上の改善点として、ルート、便数、ダイヤの要望が高い。またこれらの要望が改善された場合、全体の約83%が「利用する」と回答している。 ・「企業アンケート」の結果、主な通勤交通手段としては、自家用車が8割以上と多くなっているが、市外在住者は、「送迎バス」や「鉄道+送迎バス」も少数ある。通勤での公共交通利用への転換取り組み状況は、「取り組んでいないし、今後も取り組むことは難しい」という回答が、87.8%と最も多い。取り組むことが難しい理由として、「車でしか通勤できない場所だから」が81.4%、「近くに鉄道駅・バス停がないから」が53.5%と高い。また、通勤時におけるコミュニティバスの利用は、「考えていない」が82.0%と高い割合となっている。一方で、利用を「考えている」と回答した企業も7社あった。
山崎議長	・利用実態調査とアンケート調査の説明であった。これに関して質問、意見があったら発言していただきたい。 ・意見がないので次の議題に移る。
事務局	議題（２）問題点・課題、運行形態の改善方策の検討案説明・・・資料2 ・実証運行に関わる問題点として、「乗車実績が昨年度を下回る」「土曜日から月曜日の利用が少ない」「利用が少ないバス停、時間帯がある」「利用状況が低い」「サービス改善要望が高い」「西部臨海部の企業は自動車利用が主体」「企業におけるバス利用意識が低い」の7つの事項が挙げられる。 ・これらの問題点をふまえ、実証運行の課題として「利用者の伸び悩みに対する改善」「PR」「ルート、ダイヤの改正」「利用促進」「地域で守り育てる体制の展開」の5つの事項を考えた。 ・また昨年度策定した「地域公共交通総合連携計画」の中で、「市内バス運行の改善・充実」「高齢者や学生等の交通弱者への対応」「公共交通サービス水準格差の解消」という3つの大きな方針を定めているので、これらも考え合わせて、「バス停の見直し」「ダイヤの見直し」「ルートの見直し」「利用促進の検討」という4つの改善方策の案を作成した。 議題（３）ルート・バス停見直し検討案説明・・・資料3 ・北部ルートは、「農村多目的センター」「小林医院」「ピアゴ十四山店」「前ヶ須」の4箇所のバス停を追加し、ルートの変更はしない。 ・東部ルートは、「弥富駅南口」を経由して、「総合福祉センター」まで延伸するとともに、「前ヶ須」「村瀬医院」「樺場」を追加した。 ・南部ルートも「総合福祉センター」まで延伸するとともに、バスの走行安全性を考慮し、走行しやすい道路へのルート変更や、要望のあった箇所へのバス停の追加設定を考えている。 ・また、西部臨海部において、既存のルート近くでバス利用に前向きな回答をしている4つの企業前にバス停を追加した。 ・また、イオンタウンバス停は、イオンタウン敷地内への乗り入れが可能か、事業者と調整している。

山崎議長	・資料 2 では、問題点・課題から運行形態の改善方策案までの流れを、また資料 3 では、具体的なルートやバス停の変更案を説明していただいた。 ・意見があれば、発言していただきたい。
大木委員 (副市長)	・東部ルートの利用が少ないということで、昨日、十四山地区で住民意見交換会を行った。 ・見直し案に記載されている「樺場」,「十四山小学校」以外に、馬ヶ地にバス停がほしいという意見があった。資料 3 ページの東部ルート見直し案を見ていただくと、「野村胃腸科」の先を北西方向に行って、馬ヶ地にバス停を設けていただくと、馬ヶ地集落の方が利用できる。そしてそのまま佐古木まで行くと。の「鮫ヶ地」バス停は通らなくなるが、近くに「龍頭公園」バス停があるので、問題ないと思う。 ・また、朝、佐古木駅に行くのに、現在は左回りだけなので、反対回りも入れてほしいという意見があった。
山崎議長	・東部ルートの地元からの要望の報告であった。 ・意見があれば、発言していただきたい。
伊藤委員 (議会議長)	・北部ルートでは、「スギ薬局」から「前ヶ須」、東部ルートでは、「村瀬医院」から「前ヶ須」までの間にバス停がない。以前は、弥富中学校付近にバス停が、2ヶ所あった。 ・ダイヤの中で、時間がかかるという意見がある。現在北部ルートは、「スギ薬局」から「南前新田交差点」、「平島中タウンパーク」、「前ヶ須」を経由して「海南病院」「弥富市役所」というルートになっているが、特に「平島中タウンパーク」から「スギ薬局」、「南前新田」から真っ直ぐに、「市役所」や「海南病院」に抜いても、この間のルートはそんなに問題はないと思う。 ・隣接のバスを考えても、「前ヶ須」地区には木曽岬バスも走っている。「南前新田交差点」から、「海南病院」、「市役所」の間の道路の幅員の問題があるかも知れないが、これを直行させれば、それだけ時間短縮になる。 ・北部ルートも「川平公民館」から「西部保育園」まで道路幅員の関係なのか、一旦、国道に出てまた入っている。このあたりも時間短縮が考えられる。 ・南部ルートに新しく設置される「稲元」バス停も、「狐地公民館」からは「三好」バス停をずらした方が、時間短縮になると思う。 ・ルートによっては、朝晩の利用が 3～4 名という場合もある。利用の少ない便を利用の多いところにまわすような、ダイヤ設定が必要である。 ・現在、定期券はないが、料金体系はどのようになっているのか知りたい。
山崎議長	・効率的なルートという意見だったと思う。民間のバスならば効率性を最大限重視できるが、コミュニティバスの場合は、ある程度、玄関口まで入ることも必要である。 ・ダイヤ設定については、今回は審議しない。 ・ルートについて、事務局から考えがあれば聞かせてほしい。
事務局	・福祉バスの時の乗車実績が悪かったバス停は、廃止としている。
伊藤委員 (議会議長)	・今の「村瀬医院」と「前ヶ須」の間は、北部ルート、東部ルートと複数のルートが通っている。便数が多ければ、利用者はそこに集まる。 ・「前ヶ須」地区には木曽岬のバスも走っている。 ・「スギ薬局」から市役所にそのまま向かえば、7、8 分は短縮できる。
服部市長	・当初コミュニティバスを立ち上げた時は、福祉よりは公共性ということで、病院や駅に対する利便性を図ることを目指した。しかしアンケート調査の結果では、弥富市北部にある福祉センター行きバスの要望が高い。そうい

	・うこともあり、福祉センター行きのルートの検討をお願いしたい。 ・また現行ルートのバス停も、増やす必要があると思っている。 ・ルートも可能な限り変更しないと、このコミュニティバスは市民の支持が得られないと思っている。 ・公共バスは、市民が利用して始めて意味がある。検討をお願いしたい。
山崎議長	・具体的な話もいくつか出た。今日は、一つ一つの意見を図面に落として検討する時間はないので、改めて再検討する必要があると思うが、事務局としてスケジュールは大丈夫か。
事務局	・新しい運行形態は、4月1日を目指している。 ・1月中に、ルートやバス停の確定を行う必要がある。ルート、バス停の検討を行うのであれば、1月中にもう一度協議会を開催して了解を得るというスケジュールになる。
服部市長	・スケジュールを追うということではなく、検討をしっかりと行うことが大事なポイントで、その結果、承認が伸びて、5月の運行開始となってもやむを得ないと、私は考える。 ・アンケートなどによる市民の声を、今回の変更点にしっかりと活かしていくことが大切。
永山委員 (タクシー協会)	・福祉バスは無料であったが、コミュニティバスになって有料となった。全国的に見ても福祉バスから移行後に、30%位は利用が減るが、住民の必要に応じて自然回復していくのが一般的な傾向である。そんな中で、弥富市の場合は、資料を見るとそれほど大きく減少していないように思う。 ・利用者は多いほうが良いが、数にとらわれるのではなくて、地域の住民の需要をきちんと把握して見直す視点が大事である。いろいろな交通手段の選択肢を持っている健常者の通勤に、バス利用への転換を強いても無理な話。コミュニティバス利用者は、福祉バスの利用者が大半と考えられるので、そこをきちんと考えるのが大事である。 ・中山間地などではフリー乗降のバスもあり、大変便利であるが、弥富市のような都市部では交通安全上難しいと思われる。そういう点で、バス停は非常に重要だと思う。バス停が300m間隔であれば、最大でも150m歩けばバス停に着く。交通安全を考慮しつつ、できるだけ多くのバス停の設置が大事であると思う。 ・バス路線の見直しについて。弥富コミュニティバスは、通勤通学を考えた速達性の直行型ではなく、デマンド型の性格を持っている。そういう考え方を外してはいけないという感じが少しする。 ・市民に一度は乗車してもらうことが大事である。月に一度でも、バス乗車の日を設けるのはどうか。利用して始めて、市民の感想も聞けると思う。
山崎議長	・大変良い意見をありがとう。 ・運行開始から、まだ半年しか経っていない。バスも無料から有料になったことを考えると、この程度の減少は優秀な方だと私も思う。 ・本来ならば、開始半年で路線変更はすべきでないと思う。むしろ利用促進に力を入れるべきであると思う。ただ今回の改変案は、バス停がなかった所の路線を変更したり、住民のニーズに対応するということが中心となっている。 ・全路線がイオンタウンに乗り入れするのは、大きな意味があり、利用者増につながると考える。利用促進については、この後の議題で出てくるので、そちらでご審議していただきたい。 ・市民代表の方で意見があれば、発言していただきたい。
福田委員	・民生委員をしている上で、聞いた意見を3つ紹介する。

(民生委員長)	・生活保護は受けていないが、年金額が少ないという方がいる。福祉センターまで今まで無料で行けたが、今は1回行くと400円かかるので、なかなか行けなくなったという。バス運賃無料の年齢に達していないが、何とかならないかと言われた。低所得者対象の割引制度があるといい。 ・雨の日に海南病院で一人暮らしのお年寄りに会った。行きはバスで来たが、帰りの時刻がわからないという。病院の入口にバスの時刻表を掲示できないか。 ・弥富中学校に通うのに、風もあって雨の日に頭からびしょ濡れで自転車で走っていた。桜小学校区や、鍋田小学校区からだとずい分距離がある。片道だけでもバスを利用出来る様になれば良いと思った。
山崎議長	・これも利用促進や、利便性の向上のところだと思う。また後から事務局から説明とあわせて、今の意見に対する回答をしていただきたい。 ・今回、作成していただいた案は、もう少し細かい部分で見直しをした方がよいという意見があった。先ほどのスケジュールで行くと、来月にもう一度会議を開いて承認いただく形にしてはどうか。
事務局	・1月の後半になると思うが、もう一度、会議を開催して、案を提示させていただき、ご検討いただきたい。
山崎議長	・そういうことで、再度集まっていたきたい。 ・案を作り込んでいくにあたって、具体的な案をお持ちの委員さんもおられるので、そういった案を十分に吸い上げた上で、検討いただきたい。 ・運行事業者の三重交通さんに、コミュニティバスと言いつつも、効率的な運行を考える必要があるので、プロフェッショナルな立場からルートのとおり形について一緒に考えていただきたいと思うが、いかがだろうか。
大井委員 (三重交通)	・もちろん利用活性化上、必要な事と思うので協力したい。
山崎議長	・ルートの具体案は次回に持ち越したい。 ・続いて次の議題(4)に移る。
事務局	ダイヤの見直しについて・・・資料2の追加説明 ・基本的に見直し検討の内容として、鉄道との乗り継ぎにおいて、駅利用状況を把握し、乗り継ぎしやすい時間帯に変更する。 ・3ルートそれぞれの乗り継ぎの改善を図る。 ・夜の便の利用者が少ないことから、便数の調整を図る。(減便の検討) ・隣接町村との乗り継ぎを図る。 ・東部ルートで、日曜日の利用者が少ないことから、便数の調整を図る。 議題(4)公共交通の利用促進活動等の検討案説明・・・資料4 ・「利用者負担軽減策」として、定期券の発行、シルバーパスの発行、障害者同伴介護者も100円とすることを来年度から実施。 ・「広告事業」も来年度から実施。 ・「分かりやすい時刻表・マップ」は見直して新たに作成する。地域の人達と「お出かけマップ」を作成する。 ・「お試し乗車券」の配布、「シンポジウム、講習会」、「利用促進イベント」の開催を検討する。 ・「コミュニティバスの愛称募集」 ・バス乗車の際に、シールやスタンプを集めるイベントを実施。 ・具体的には、4月3日の春祭りに、バスコーナーを作って展示することを考えている。

	・将来的には、駐輪場を利用したサイクルアンドバスライドも検討したい。 ・子供を対象にコミュニティバスを描いた絵を募集し、車内ギャラリー展を開催する。
山崎議長	・利用促進活動、ソフト的な対策について説明していただいた。 ・これに関して、意見質問等はないか。
福田委員 (民生委員)	・期間内であったら、定期券は何回利用してもよいのか。
事務局	・期間内であったら、何回でも乗車可能である。
谷 委員 (海部建設事務所)	・弥富市内には文化財が豊富にある。 ・11月25日に木曽川下流事務所が木曽三川地区の観光連携懇談会が協議会に変わった。市長もメンバーである。将来的な話であるが、利用促進の点からも、もう少し観光の面も考えてはどうか。
山崎議長	・弥富といえば金魚ということもある。観光で外部の人を呼ぶのも、まちづくりの上ではまちの活性化になる。 ・もう一方で、弥富は名古屋市のベッドタウンとして、人口流入もある。そういう方々に自分の町を発見してもらうような、ここにあるようなスタンプラリーのようなことを企画していただくと、市民が楽しめて、かつバスに乘車できるようなイベントになると思う。事務局で、今後そういった点も検討していただきたいと思う。
事務局	・現在もこどもの国や野鳥園など、弥富市のいくつかの観光の場所にバス停を設置している。また今回の案に多目的センターバス停があるが、ここは服部家住宅も近くにあるので、そういったこともPRしながら進めていくのも良い考えだと思う。
伊藤委員 (公募委員)	・この間、弥富の観光施設をまわるという近鉄のハイキングに参加したが、非常に距離が長くて途中、コミュニティバスが利用できると良いと思った。弥富市は南北に長いので、文化財も散在している。バスの土日利用が少ないのであれば、コミュニティバスを利用した文化財めぐりを企画してはどうか。 ・時刻表の字が小さくて、見にくい。何とか工夫してほしい。先ほど施設の中に時刻表が掲示してあれば良いという意見があったが、そういった公共施設ではもっとわかりやすくする努力をしてほしい。
山崎議長	・バス停のある施設と連携しながら、わかりやすく情報提供をするということである。 ・先ほどイオンタウンに乗り入れることを考えているということであったが、そういった商業施設の中でも、バスを待つ場所にバスの時刻表示等、何らかの形でバスをPRすることを検討していただきたい。
事務局	・福祉センター等では、時刻表を大きく掲示している。また音声案内も福祉センターと、憩いの家では行っている。 ・海南病院には、ポケット時刻表の冊子も置いているので、受付でバスの時刻が確認できる。
佐久間委員 (区長会)	・資料4に利用促進案として6項目提示されているが、4番目の「お試し乗車券」の配布は是非行ってほしい。

山崎議長	・「お試し乗車券」の配布については、何か具体的に検討されているか。
事務局	・新ダイヤの発足に併せて、「お試し乗車券」を各家庭に配布することを考えている。
長崎委員 (バス協会)	・質問ですが、資料４の５にシンポジウム、講習会とあるが、具体的にどんなことを考えているか。 ・私どもバス協会としても、利用促進に向けての取り組みは是非進めていただきたいと思う。些少ではあるが、協会からの助成制度もあるので、活用していただきたい。
事務局	・講習会については、まだ具体的なものは考えていない。バスの乗り方がよくわからないという声もあるので、そういったことも含めた講習会を考えている。 ・バス協会の助成は非常にありがたいお話で、よろしくお願ひしたい。
伊藤委員 (公募委員)	・「お試し乗車券」は大変面白いと思う。 ・市の職員は、通勤等にどの程度コミュニティバスを使っているのか。
事務局(伊藤)	・通勤手段として使う場合は、通勤手当の支給となるが、選択は職員に任せている。 ・私用でのバス利用は、PRしている。飲酒運転防止のために、近い職員は月数回利用している。職員にバス通勤を強制することはできないので、理解してほしい。 ・私自身は、近くにバス停がないのでバス停まで妻に送迎してもらい、バスに乗っている。
山崎議長	・市の職員だけでなく、この会議の委員自身も利用しているかどうか。この会議には、バスを使って出席するという姿勢も必要である。 ・ある自治体では、市の全職員のバス利用は、2、3%しかないのに対して、交通対策の部署では、6、7割がバス通勤をしている例もある。委員の皆さんも、できるだけバスを利用していただきたい。
伊藤委員 (議会議長)	・65歳以上のシルバーパスは1ヶ月3,000円なので、計算すると片道50円になる。65歳以下の人も、1～2キロ程度の距離で3,000円ぐらいの定期券があれば、利用したいという声もある。議会の中でも議論があった。 ・距離による料金設定も必要だと考える。
山崎議長	・今の意見は、根本的な料金設定に関することであるので、今日の議題ではないと思う。 ・定期券の料金は、ここに事務局案が出ている。大人、高校生以下・障がい者、シルバーパスと3種類の定期券がある。それとその他の運賃として、障害者の同伴介護者を100円運賃とすると。この部分は、本日の協議会でご審議いただいて、承認していただきたいと考えているが、意見はないだろうか。
服部市長	・この半年間、バスの1ヶ月の平均乗車賃収入は50万円未満である。今後の利用促進のなかで、どのような利用料金の設定ができるか事務局でシミュレーションしていただきたい。 ・コミュニティバスなので、利用者負担を念頭に置きながら運行している。

	市民からすれば、利用に対する公平感を常に求められる。
山崎議長	・今回の案で、どの程度の利用者でどんな収入になるのか、事務局で計算しているのか。
事務局	・現在は、利用促進を考えた料金設定にしている。採算性については、検討していない。
山崎議長	・この料金設定をしたらどうなるかと、シミュレーションをするのは難しいと思う。 ・今回の定期券の料金案は、根拠も示されているので妥当な数字という気もする。そもそも定期を買うのは、かなり利用頻度が高い人になる。定期券が今までバスを利用していなかった人達を取り込める形になれば、良い。また今利用している人達で、料金に抵抗を感じている人達が定期券を購入してくだされば、一定の利用者確保につながると思う。 ・他に意見はないか。
代理 後藤氏 (臨海部企業 連絡協議会)	・今回はルート変更、バス停の増設に感謝する。 ・臨海部には住民がいないので、全員が通勤利用となる。回数券があれば便利だが、いかがだろうか。
事務局	・料金設定は、先ほども申し上げたが、利用促進を考えたものである。 ・回数券は 12 枚つづりで 10 回分の料金で、現在発行している。
永山委員 (タクシー協 会)	・公共交通機関なので、不特定のいろいろな年齢層の方やハンディキャップを持った方も利用される。最も大事な事は、安全の確保だと思う。今日までの運行の中で、これは個人的な要望でもあるが、交通規制や道路整備等の問題で、運行系路上、安全確保は担保されてきたかという質問である。 ・バスの待ち時間のイメージアップという点から、利用者が多いバス停に上屋を設けるとか、そういう施設整備も必要があると感じる。
事務局	・道路の運行に関して。確かに狭い道もあるが、道路管理者の許可を得て運行開始しているので、その点で安全確保はできていると思う。 ・上屋に関しては、まだそこまで整備は進んでいない。ベンチ等設置の要望もあるが、今後検討していきたい。
山崎議長	・今後の利便性の向上のための対策として、是非考えていただきたい。 ・他に意見はないか。
鈴木委員 (女性の会)	・65 歳以上のシルバーパスはここに載っているが、75 歳以上は無料で間違いないか。 ・これまでは福祉バスの時は全て無料であったことから、高いと感じる方もある。無料ではないが、月 3000 円で毎日利用できるということを、PR する必要があると感じた。 ・利用促進イベントはここにもあるが、いろいろな団体と連携してコミュニティバスを利用してもらう企画を立てたら良いと思った。 ・バス停に、付近の施設や土地の紹介が書いてあると、バスを待つ間の楽しみにもなるし、観光的な PR にもつながると思う。
坂下委員 (福寿会)	・定期券や回数券について、市役所が発行している広報で PR をどんどんしていただきたい。かなり PR 不足であると思う。

	・最初のコミュニティバスの目的は、弥富駅を中心に通勤、通学の利用を図る事にあった。資料を見ると、総合福祉センターの利用者が多く、後期高齢者の料金をいただけない方の利用が非常に多い。通勤、通学利用のPRを、広報でPRしていただいて、乗客増を図ってほしい。 ・北ルートの左回り、右回りがわかりにくい。バスの横側にルートや停車バス停の表示があると、わかりやすくてよいと思う。
代理 後藤氏 (臨海部企業 連絡協議会)	・将来的な事になると思うが、バス停の設備について、風雨がしのげるバス停や、夜間照明が設置されると良い。防犯の面もあるので、よろしく願いたい。
事務局	・いろいろと貴重な意見に感謝する。 ・今回の見直しでは、朝夕の便は、従来どおりの運行を考えている。 ・イオンタウンや福祉センターまでの延伸部分は、朝早い時間帯は利用がないと思われるので、時間帯ごとに利用者を考えて、メリハリをつけた運行を考えていきたいと思っている。 ・停車バス停がわかりにくいという意見であった。全ての停車バス停をバスに表示するのは難しいが、今後検討したい。現段階では、バス停に路線図が表示してあるので、そちらをご覧ください。 ・バス停に風雨よけや夜間照明を設置することは、今後の検討課題としたい。
山崎議長	・鉄道は決まった時間に決まった所まで行けるが、バスはわかりにくいというのは、バスの宿命である。具体的に路線ごとの乗車例を示すと、PR効果があると思う。 ・資料4の定期料金、シルバーパス、障害者の同伴者運賃について、ここで承認いただきたい。
委員一同	承認(拍手)
山崎議長	・この料金案は承認されたので、事務局で準備を進めていただきたい。 ・続いて次の議題(5)事後評価案について。国から公共交通の活性化・再生事業として補助金をいただいているので、評価の必要がある。事務局から説明をお願いする。
事務局	議題(5)事後評価案説明・・・資料5 ・事後評価案は毎年1月末に提出することになっているので、本日お諮りいただきたい。 総合評価・・・法定協議会を適切に開催し地域の公共交通を活性化するために適切な事業を選定し、試行的に事業を実施する中で、その問題点の検証及びルート・ダイヤの見直しについて検討し、当該事業を本格実施する環境の整備に向けて必要な検討を行った。 計画事業の実施・・・事業計画において、コミュニティバスの実証運行を主体に取り組むほか、公共交通の利用促進活動を地域として実施する事業として位置付けている。コミュニティバスの実証運行については、平成22年6月21日より市内全域(北部、南部、東部ルート)の運行を開始し、市広報紙やホームページにて情報発信を行い、7月初めより11月末までの間に

	26,171 人が利用した。 具体的成果 …コミュニティバスの実証運行に係わる利用者を対象とした評価として、実証運行開始以降の乗車調査、9 月、10 月の 2 週間×2 回の乗降調査を実施し、利用特性の評価を行っている。また、市民・企業を対象としたアンケート調査を実施し、改善要望や意向等の把握による検証・分析を行い、実証運行に係わる評価を行っている。 …「市内バス運行の改善・充実」及び「高齢者や学生等の交通弱者への対応」「公共交通サービス水準格差の解消」といった目標に対し、朝・夕の急行ルート設定を含むバス運行本数の増加や鉄道との接続を確保し実証運行を実施している。その結果、運行開始以降、福祉バス（昨年度）の利用と概ね同様の月別利用傾向にあるが、乗車人数としては少なくなっている。一方で、昨年度比率で見ると、コミュニティバスに移行した直後の 7 月では 86.5%であったのに対し、11 月では 96.9%と利用者が増加しており、昨年度水準に近づきつつある。また市民に実施したアンケート調査で出されている改善要望では、全体の 83%が「改善されれば利用する」と回答しており、今後改善を実施することで目標を達成するためにより適切な事業になると考える。 自立性・持続性 1、事業の本格実施に向けての準備 問題点の検証 今年度のコミュニティバスの実証運行については、時間帯やバス停、ルートによって利用の偏りが見られる。またアンケート調査を実施することにより、多様な改善要望を把握し、西部臨海部においては、自動車に依存した通勤形態となっていることなどを把握した。 事業の見直し等 翌年度事業を実施するにあたり、把握した問題点等をふまえ、新たなバス停の設置による需要の掘り起こしや、運行時間帯の変更による効率化を図るなどの改善を実施する予定である。また、利用促進を図るために次年度に新たに定期券を設定する予定である。あわせて P R 活動等の利用促進活動の検討も進める。実証運行開始後、4 ヶ月を経過している時点で利用者数は増加傾向に転じており、翌年度も事業を実施することにより、よりよいコミュニティバスの本格運行に向けた実証ができると考えている。 2、事業の実施環境 当該事業の翌年度の財源の目処 平成 23 年度におけるコミュニティバスの実証運行等を実施するにあたっては、総合事業（計画事業）による国費のほか、弥富市からの財政支出によるということで、関係者の合意が形成されており、弥富市の平成 23 年 3 月議会に平成 23 年度予算案を提出し、市議会において審議してもらうことになっている。
--	--

	協賛拠出金 平成 22 年度におけるコミュニティバスの実証運行に関しては、運行地域の一部である西部臨海部の広報誌に運行開始や利用案内が掲載され、地域企業及び従業員に対し、周知・啓発活動がされており、協賛金等の拠出については、来年度からの実証運行に関し、協議会として地域の企業・商業施設等に求めていくことが、第 3 回協議会で確認された。 本格実施のための財源 これまでの協議会において、総合事業（計画事業）によるコミュニティバスの実証運行の終了後に、継続してコミュニティバスが運行できるようにするためには、地域の企業・商業施設等による協賛金（広告）等の収入も必要であるとの意見が出され、拠出金を求める議論が行われた。 住民の参加等による地域関係者の実質的な合意形成 協議会の体制 協議会の運営要領が第 1 回協議会で決定されており、協議会の審議事項は、調査事業の進め方、調査事業の実施状況、調査事業に係る評価、連携計画の策定、計画事業の進め方、計画事業の実施状況、計画事業に係る評価、その他協議会において必要と認めた事項と規定されている。 協議会への住民参加 協議会の構成員には、弥富市の区長会、民生委員協議会、福寿会、女性の会の代表が含まれているほか、公募の 2 名の市民が、計画事業の進め方を協議会で審議した上で、コミュニティバスの実証運行を実施するとともに、その実施結果については協議会で説明を行って質問や意見を受け付けており、住民の意見が計画事業に反映される仕組みが設けられている。 協議会の適切な開催 第 1 回協議会においては、協議会の構成員・検討審査の方針が確認され、それ以降の協議会においては、計画事業の進め方、実施した計画事業の結果が報告・審議されており、計画事業を実施するにあたって協議会が適切に開催された。 協議会の開示 協議会において、議事の傍聴は原則可能であり、議事録は会議開催後に公表することが規定されており、当該規定に従って、協議会資料及び議事録を弥富市ホームページにおいて公表している。 地域関係者の合意 協議会において、計画事業の内容、実施した計画事業に係る結果の取りまとめが報告・審議され、コミュニティバスの実証運行については、来年度も実証運行を実施することについて、関係者の合意形成が行われた一方、協議会の構成員以外の者からの反対の声もなく、地域
--	---

	関係者の実質的な合意が形成された。
山崎議長	・ 以上のような様々な事項について報告されるということである。 ・ 運輸支局さんとしては、今の報告を聞いてどうか。
小林委員 (中部運輸局)	・ まだ実証運行が開始されて 4 ヶ月あまりということで、具体的な評価を出せる段階ではないと思う。 ・ 概ね一般的なことが書かれていていいと思う。 ・ その後、委員の皆さんから意見があれば出していただいて、事務局一任でまとめていただければよろしいかと思う。
山崎議長	・ 今事務局から説明があったが、今日始めて追加で出てきた資料なので、この場で意見をいただくことは難しいと思う。 ・ 後日、意見があれば出していただいて、事務局一任で検討いただき、運輸局に報告していただきたいと思う。 ・ これは公共交通の活性化再生事業の補助金であるが、皆さんご存知のように、今、事業仕分けも行われていて、来年度の国の政策が変わってくるような話も聞いているが、何か現段階でお話いただくことはないか。
小林委員 (中部運輸局)	・ 弥富市さんが取り組んでおられる活性化再生総合事業であるが、行政刷新会議の事業仕分けで一旦、廃止に位置付けられた制度で、国交省として 23 年度の概算要求を 8 月にあげているが、この補助事業について抜本的に制度を改正して取り組むということで、今、予算要求をしている。 ・ 弥富市さんは今年度から 3 年間実証運行を行うということで、この 3 年の間に弥富市さんとして地域特性のあるバス路線を形成して、その間毎年、微調整をしながらより良いものを作っていくということで、3 年間の補助がある制度である。今度の見直しでは、継続した補助制度にするということで進んでいるが、まだまだどのような形になるのかは見えてこないのので、今の段階で申し上げることはできないが、元気な日本復活枠という特別の枠の中で国交省が要求している予算である。今までは 200 億円程度だったものを、地域生活交通サバイバル戦略として 453 億円を要求している。それに対して、国民の皆さんや事業者の皆さんからパブリックコメントを 10 月中に募集していた。その中で各省庁がいろいろな施策に対して予算を上げていて、国交省は 46 項目ぐらいだったが、その中でこの生活交通サバイバル戦略が一番多くの意見があって概ね、全て肯定的な意見であった。高速道路無料化の意見が最低だったと聞いている。その後、評価ランキング委員会が開かれて、サバイバル戦略の地域の補助事業は B ランクに評価された。最終的な予算の決定はこれからとなる。今の段階では、この程度のことしか言えないが、次回またいい話があればお話をさせていただく。
服部市長	・ 活性化バスは、多額な財源が必要である。来年 1 月に西尾張地区 9 市の会議が開催されるが、弥富市としても補助事業の要望を提出する。 ・ 各市共通の問題であると思う。是非国土交通省の担当の皆様には、よろしくをお願いしたい。 ・ ずばり言いますと、現在 1 億 3 千万円ほどかかっている。当初は 1/2 の補助を考えていたので、大変厳しい状況である。

	・ 原案通り今後もお願いしたい。実証検証をしっかりとやっていくことをお願いしたい。
山崎議長	・ いずれにしても、最近の国の政策の流れを見ると、頑張っている自治体には補助金の下りる傾向がある。公共交通についても、そのようなことを聞いているので、是非、積極的に頑張ってください。 ・ 最後に議題 6 として、その他に移る。
事務局	議題（6）その他…参考資料1 ・ 事業計画のフローであるが、先ほどお話があったように第 4 回協議会を 23 年の 2 月に設定していたが、1 月に行いたいと思う。日程が決定次第、連絡するのでよろしく。 ・ ルート等のご意見は、今年中に連絡していただきたい。 ・ 事後評価についての意見は、次回の協議会の席で構わないので、ご意見があればまとめておいていただきたい。
山崎議長	・ 他の方からは、連絡事項はないか。 ・ それでは全ての議題を終了した。以上で、第 3 回弥富市地域公共交通活性化協議会を終了する。今後とも協力をお願いしたい。